

# JVCケンウッド 決算説明資料

## 2020年3月期 第1四半期 (IFRS)

2019年8月7日

株式会社JVCケンウッド

# 事業内容

\* 本資料の数値は全てIFRS（国際財務報告基準）となっています。

## メディアサービス分野（MS）

### ■メディア事業

- ・ソリューション／ライフスタイル  
ビデオカメラ、ヘッドホン、プロジェクター、  
ホームオーディオ など

### ■エンタテインメント事業

- コンテンツ／受託ビジネス

## パブリックサービス分野（PS）

### ■無線システム事業

- 業務用無線、アマチュア無線、  
無線システム機器 など

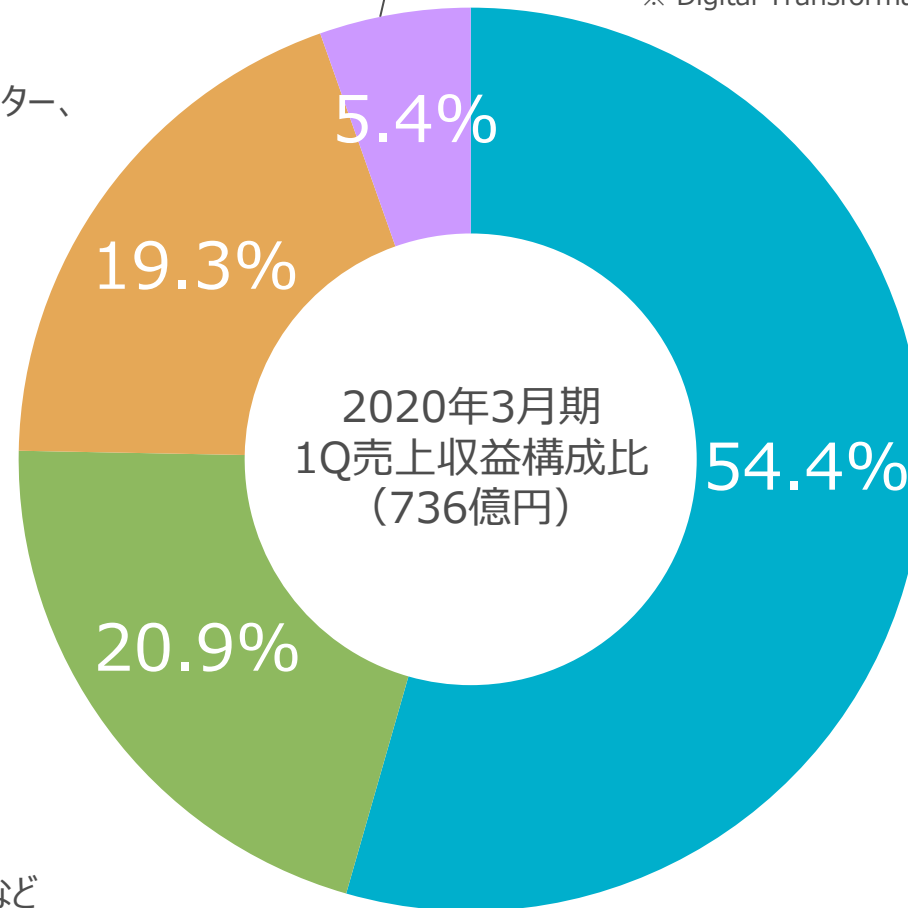
### ■業務用システム事業

- ・JVCケンウッド・公共産業システム  
監視カメラ、業務用放送機器 など
- ・ヘルスケア領域  
医用画像表示用モニター、エクソソーム解析システム、  
ゲイズファインダー など

## その他

### ■DX※ビジネス など

※ Digital Transformation



## オートモーティブ分野（AM）

### ■アフターマーケット事業

- ・カーナビゲーション
- ・カーオーディオ
- ・ディスプレイオーディオ
- ・ドライブレコーダー など

### ■OEM事業

- ・カーナビゲーション
- ・ディスプレイオーディオ
- ・ドライブレコーダー
- ・車載用カメラ
- ・車載用CD／DVDメカ
- ・車載用光ピックアップ
- ・車載用スピーカー
- ・車載用アンテナ
- ・車載用アンプ など

**1. 2020年3月期1Q決算概況**

**2. 2020年3月期 通期業績予想**

**3. 主な取り組み**

**1. 2020年3月期1Q決算概況**

2. 2020年3月期 通期業績予想

3. 主な取り組み

# 2020年3月期1Q決算ハイライト

- 売上収益は、AMが減収も、PS・MS・その他が増収で全社でも増収
- コア営業利益は、AMが減益もPSが損益改善し、MS及びその他が増益となったことから、全社でも増益
- 税引前利益は、営業利益の増加などにより増益
- 四半期利益は、税引前利益の増加などにより増益

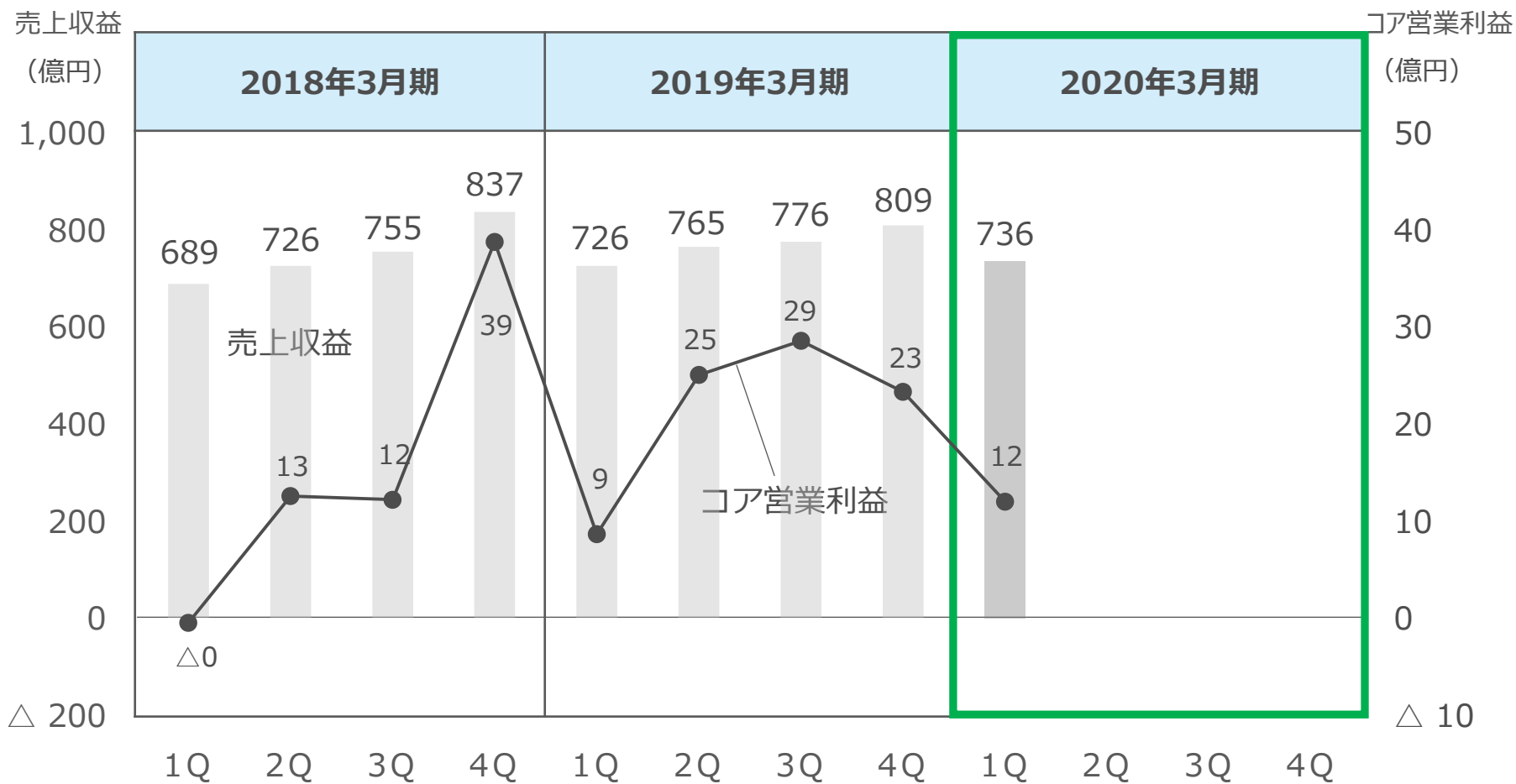
(億円)

	'19/3期1Q		'20/3期1Q		前期差
		構成比 (%)		構成比 (%)	
売上収益	726	100.0	736	100.0	+ 10
売上原価	533	73.5	542	73.6	+ 9
売上総利益	192	26.5	194	26.4	+ 2
コア営業利益 <sup>※</sup>	9	1.2	12	1.6	+ 3
営業利益	10	1.4	18	2.4	+ 8
税引前利益	9	1.2	16	2.2	+ 8
親会社の所有者に帰属する四半期利益	3	0.4	9	1.2	+ 6

※ 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

		'19/3期					'20/3期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
損益為替レート	1米ドル	109円	111円	113円	110円	111円	110円	-	-	-	-
	1ユーロ	130円	130円	129円	125円	128円	124円	-	-	-	-

# 2020年3月期1Q決算（四半期別）実績推移



損益為替レート	1米ドル 1ユーロ	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
		111円	111円	113円	108円	109円	111円	113円	110円	110円	-	-	-
		122円	130円	133円	133円	130円	130円	129円	125円	124円	-	-	-

(億円)

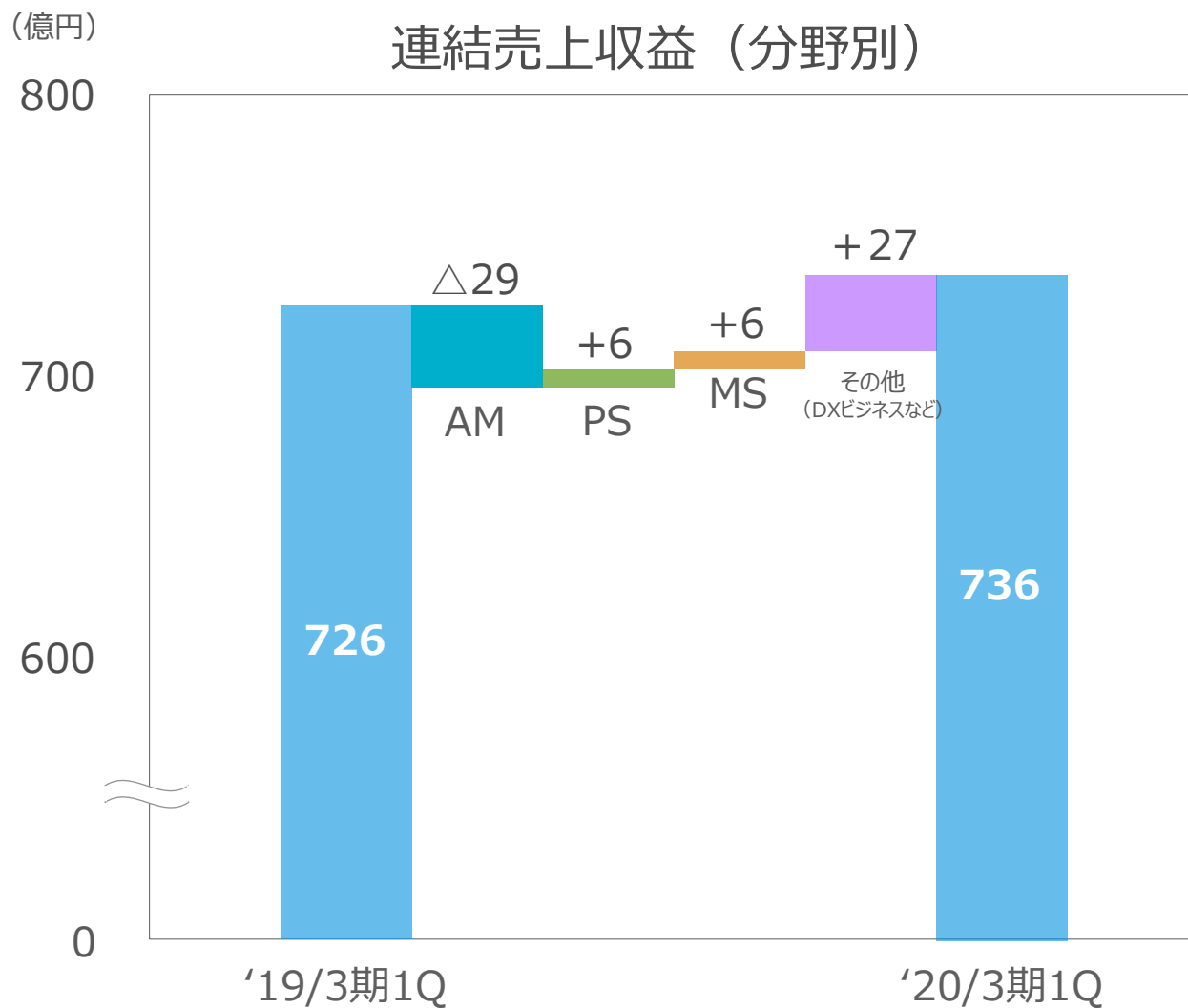
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	1,415	1,592	1,491	1,585	-	-
コア営業利益	12	51	34	52	-	-

# 2020年3月期1Q決算 分野別の状況

(億円)

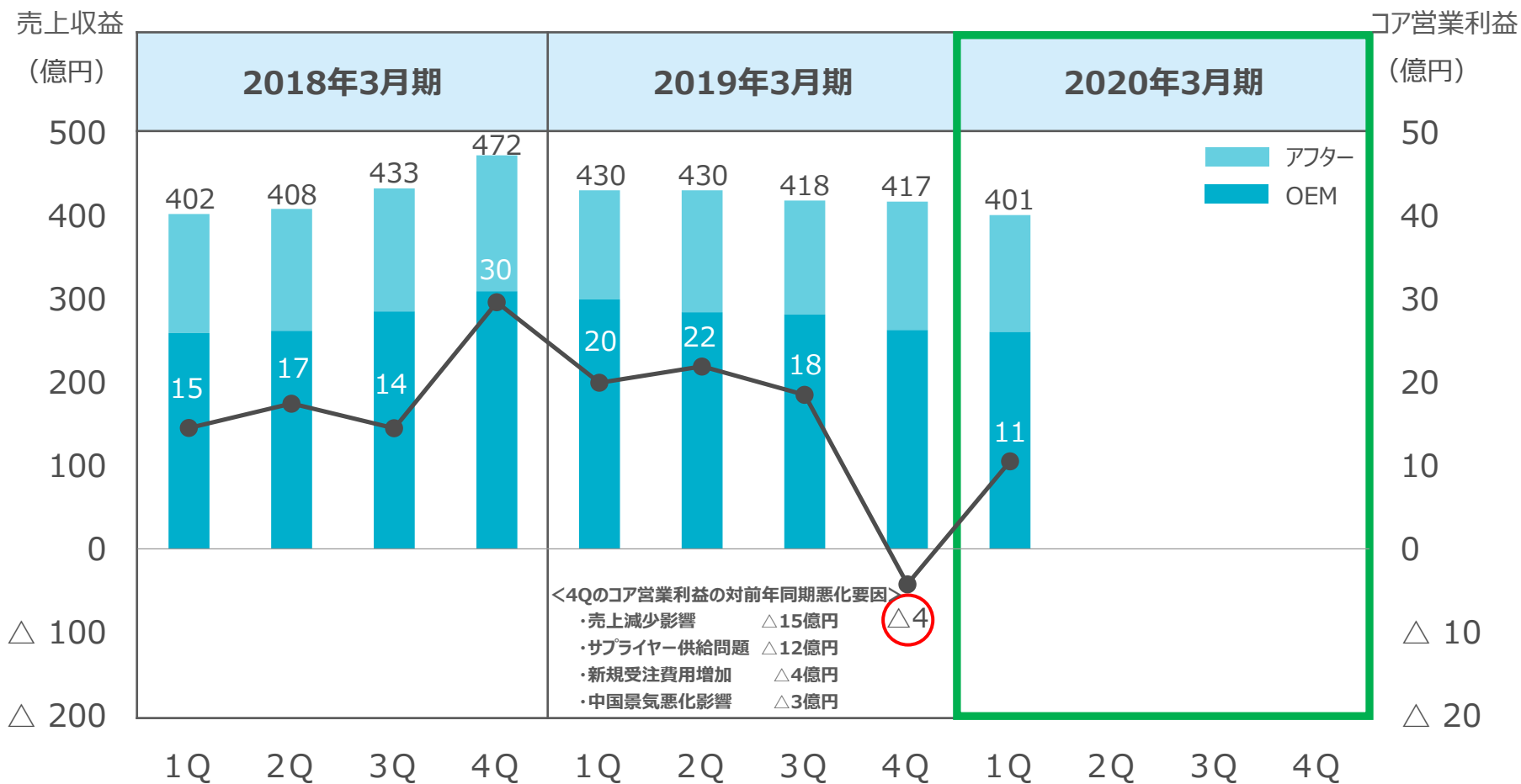
		'19/3期 1Q	'20/3期 1Q	増減	前期増減率	要因
オートモーティブ	売上収益	430	401	△ 29	-6.9%	* アフターマーケットは国内市場の好調により増収も、OEMは純正の販売減、中国景気悪化影響を受けたことなどから、分野全体では減収
	コア営業利益	20	11	△ 9	-47.3%	* 減収の影響に加え、OEMでサプライヤーの部品供給問題の影響を受けたことなどから分野全体で減益
パブリックサービス	売上収益	147	154	+6	+4.4%	* 国内無線システムの販売増、業務用システムの販売増などにより、分野全体で増収
	コア営業利益	△ 12	△ 6	+6	-	* 増収の効果から、分野全体で損益が改善。無線システムは、4四半期連続で黒字を計上し、黒字が定着化
メディアサービス	売上収益	136	142	+6	+4.7%	* ビデオカメラなどの販売減の影響を受けメディアは減収も、エンタテインメントは、販売が好調に推移したことから、分野全体では増収
	コア営業利益	2	5	+2	+115.6%	* メディアで原価改善効果が発現したことなどから、分野全体では増益
その他 (DXビジネスなど)	売上収益	13	40	+27	+209.5%	* テレマティクスソリューション関連の販売が好調に推移したことなどにより、DXビジネスの売上が拡大したことなどから増収増益
	コア営業利益	△ 1	3	+4	-	
合計	売上収益	726	736	+10	+1.4%	
	コア営業利益	9	12	+3	+39.5%	

# 2020年3月期1Q決算 連結売上収益（分野別）





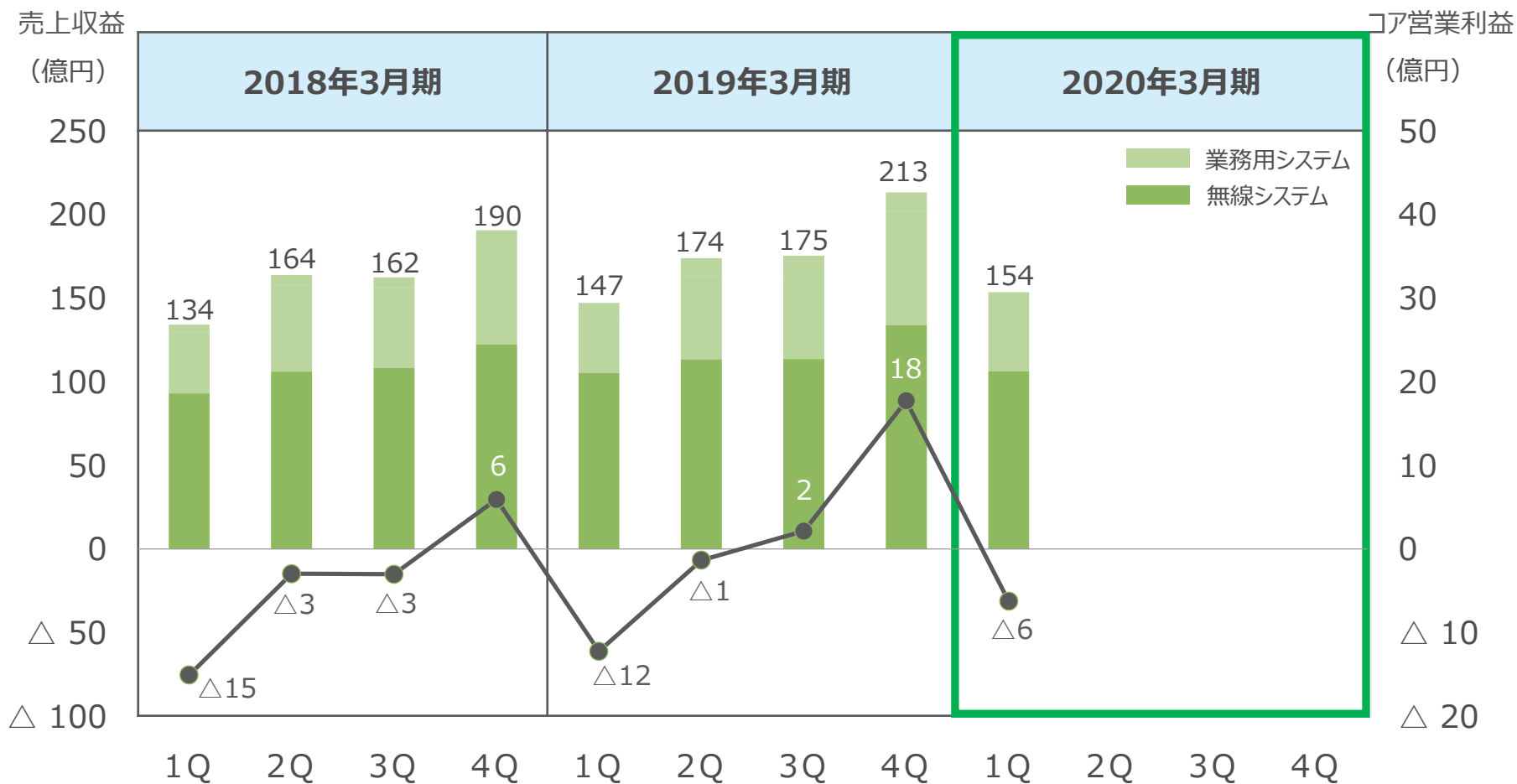
# 2020年3月期1Q決算 AM分野 四半期別実績推移



(億円)

	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	810	905	861	835	—	—
コア営業利益	32	44	42	14	—	—

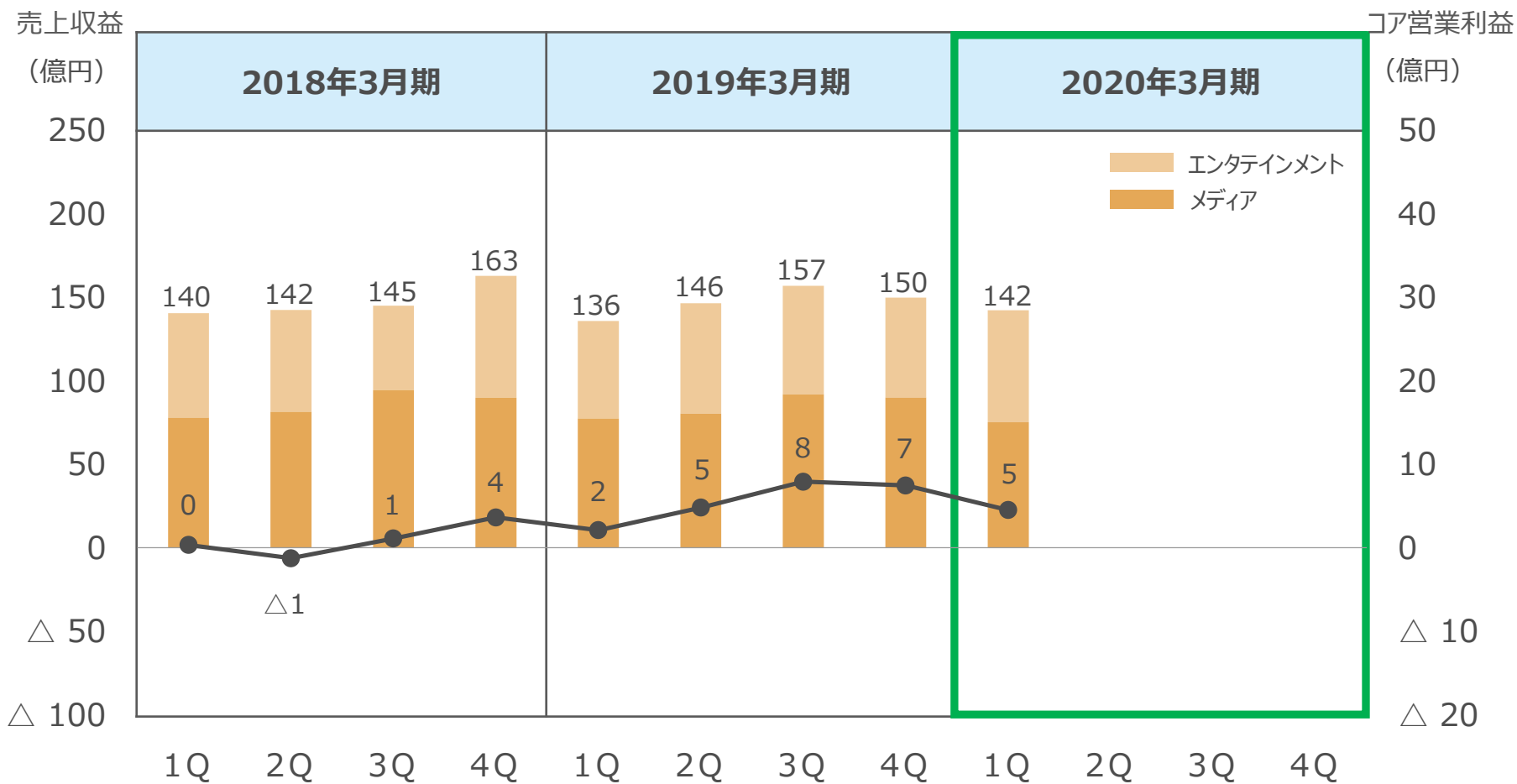
# 2020年3月期1Q決算 PS分野 四半期別実績推移



(億円)

	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	298	353	321	389	-	-
コア営業利益	△ 18	3	△ 14	20	-	-

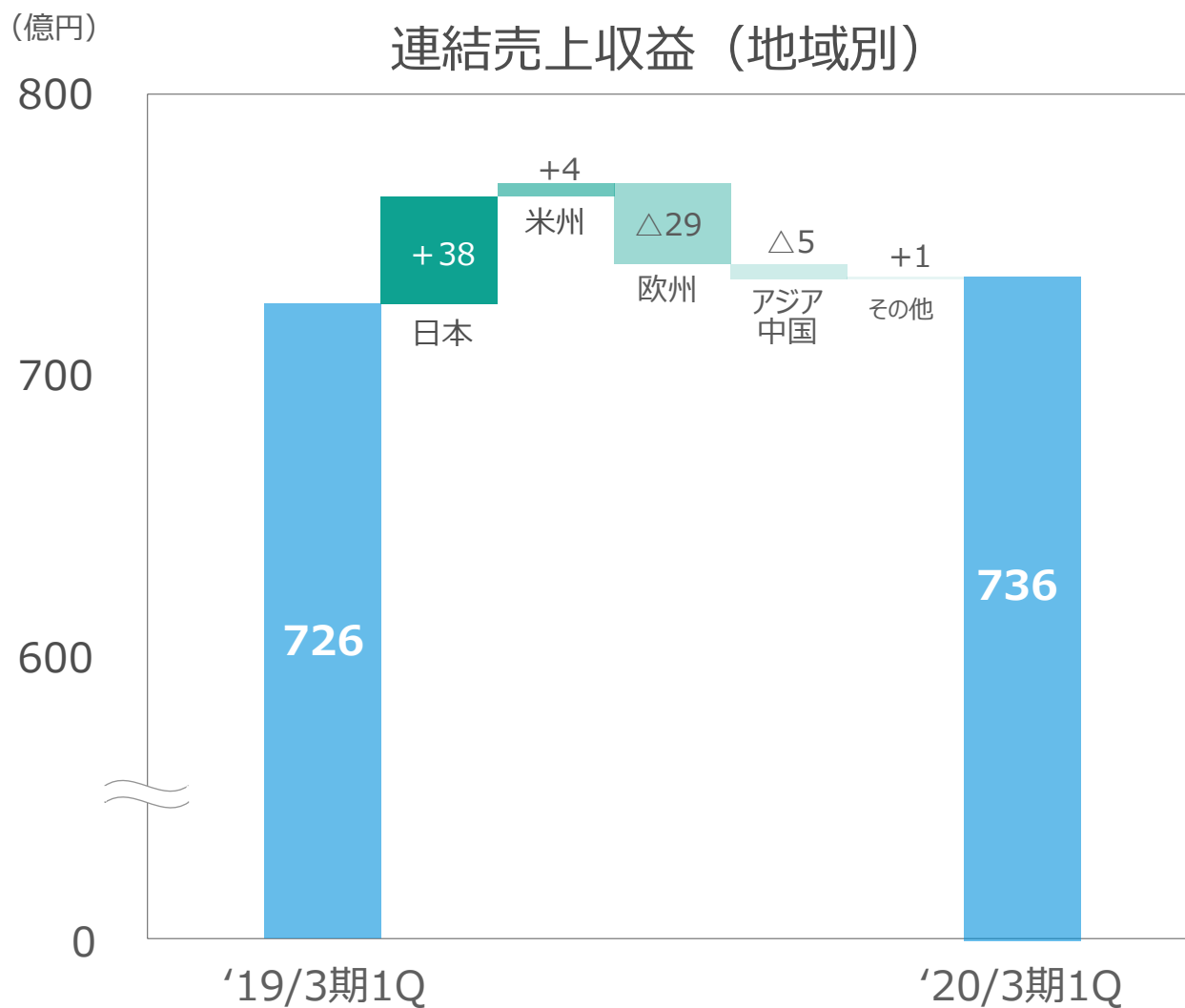
# 2020年3月期1Q決算 MS分野 四半期別実績推移



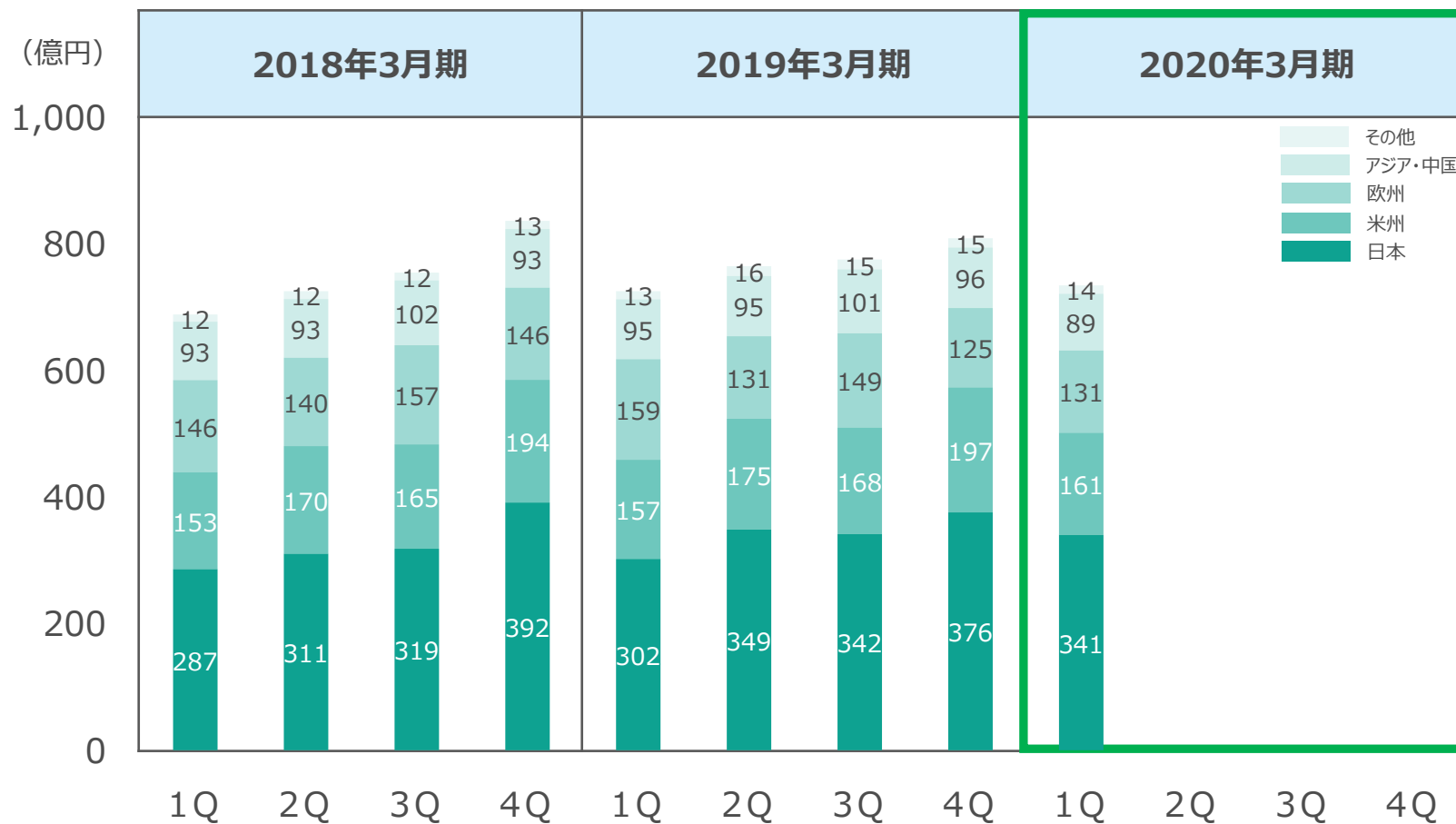
(億円)

	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	282	307	282	306	—	—
コア営業利益	△ 1	5	7	15	—	—

# 2020年3月期1Q決算 連結売上収益（地域別）



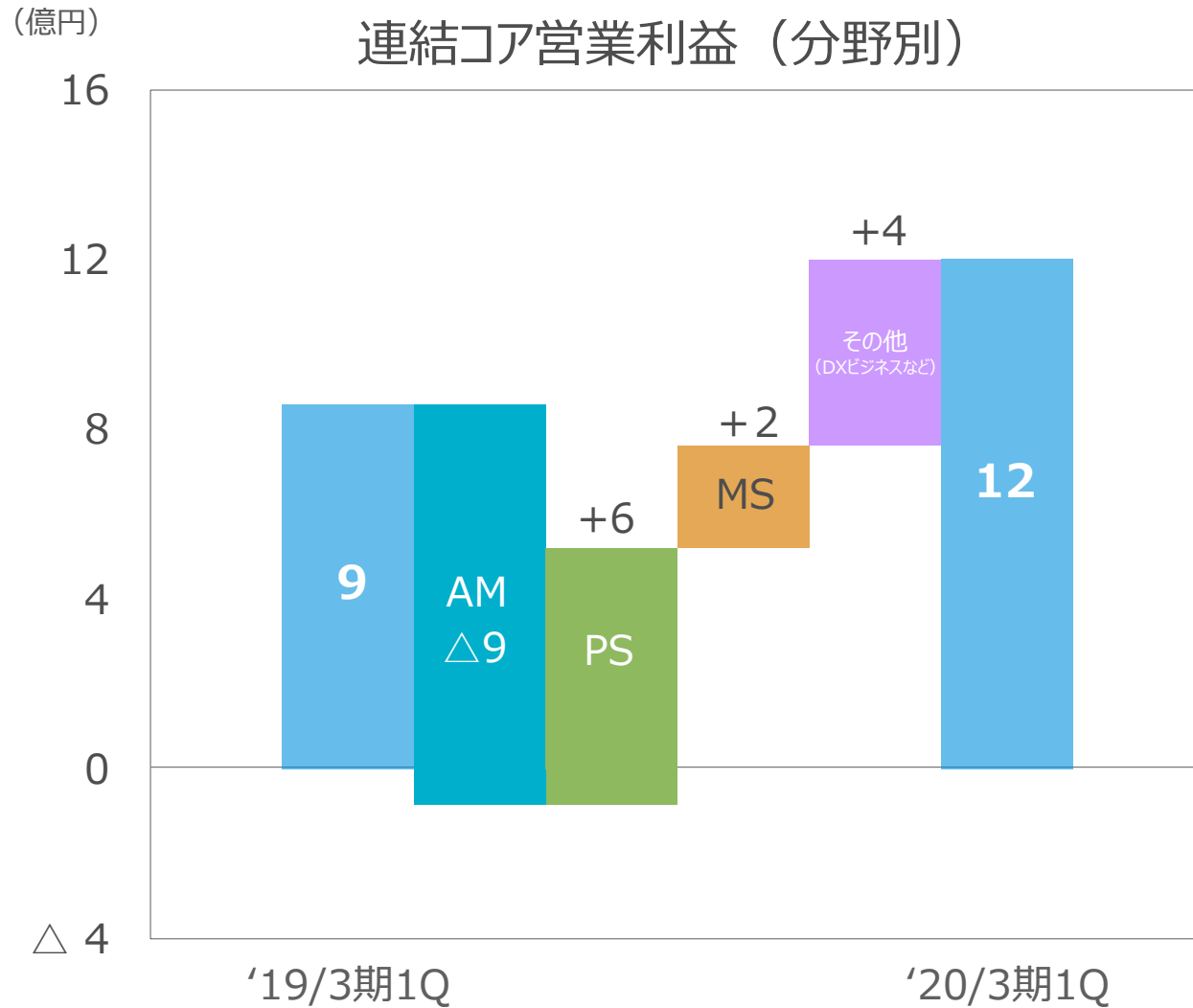
# 2020年3月期1Q決算 地域別連結売上収益推移



	2018年3月期		2019年3月期		2020年3月期	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
日本	598	711	651	718	—	—
米州	323	359	332	366	—	—
欧州	285	303	290	274	—	—
アジア・中国	186	195	190	197	—	—
その他	24	25	28	30	—	—

(億円)

# 2020年3月期1Q決算 連結コア営業利益（分野別）



# 2020年3月期1Q決算 連結損益（要約）

- 営業利益は、コア営業利益の増加に加え、その他の損益が改善したことから増益
- 営業利益の増加などにより、税引前利益は増益
- 税引前利益の増加などにより、親会社の所有者に帰属する四半期利益は増益

	'19/3期1Q	'20/3期1Q	増減
コア営業利益 <sup>※</sup>	8.6	12.0	+ 3.4
その他の収益・費用、為替差損益等	1.4	5.7	+ 4.4
営業利益	10.0	17.7	+ 7.8
金融収支他	△ 1.1	△ 1.4	△ 0.2
税引前利益	8.8	16.4	+ 7.5
法人所得税費用	4.7	6.4	+ 1.7
非支配持分	1.4	1.1	△ 0.3
親会社の所有者に帰属する四半期利益	2.7	8.8	+ 6.1

※ 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

# 2020年3月期1Q決算 財政状態サマリー

- IFRS第16号「リース」の適用により、20/3期の期初バランスシートにて資産+84億円、負債+98億円、資本△14億円の影響が発生

(億円)

	'19/3期末	'20/3期1Q	増減
資産合計	2,506 (2,590)	2,547	+ 41 (△44)
負債合計	1,853 (1,951)	1,923	+ 71 (△28)
資本合計	653 (639)	624	△ 30 (△14)
有利子負債	713	701	△ 12
ネットデット	305	299	△ 6
ネットD/Eレシオ (倍)	0.49	0.51	+ 0.02
親会社の所有者に帰属する持分	620 (606)	591	△ 29 (△14)
親会社所有者帰属持分比率 (%)	24.7 (23.4)	23.2	△ 1.5 (△0.2)

※ ( ) 内の数値は、IFRS第16号「リース」の影響を加味した数値



# 2020年3月期1Q決算 キャッシュ・フローサマリー

- 利益の増加や運転資金の減少などから、営業キャッシュ・フローは収入が増加
- M&A投資がなかったことなどから、投資キャッシュ・フローは支出が減少
- 借入金の返済などから、財務キャッシュ・フローは支出が増加

(億円)

	'19/3期1Q	'20/3期1Q	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	35	82 (74)	+ 47 (+39)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 65	△ 51	+ 15
フリー・キャッシュ・フロー (営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー)	△ 30	31 (23)	+ 61 (+53)
財務活動によるキャッシュ・フロー	5	△ 31 (△23)	△ 36 (△28)
合計	△ 25	1	+ 26

※ ( ) 内の数値は、IFRS第16号「リース」の影響を加味した数値

1. 2020年3月期1Q決算概況

2. 2020年3月期 通期業績予想

3. 主な取り組み

# 2020年3月期 通期業績予想

- 1Qは、売上収益、営業利益ともに想定及び前年同期を上回る実績
- 2Q以降は、AM分野でアフターマーケット事業の国内市場で引き続き好調な販売、PS分野及びMS分野において堅調な販売が見込まれるが、中国の景気悪化影響などのリスクが見込まれることから、現時点では通期連結業績予想の修正は行わない

(億円)

	'19/3期 実績	'20/3期 予想	増減
売上収益	3,076	3,100	+24
営業利益	73	74	+1
税引前利益	64	65	+1
親会社の所有者に帰属する当期利益	38	40	+2

		'19/3期実績	'20/3期想定
損益為替レート	1米ドル	111円	113円
	1ユーロ	128円	128円

1. 2020年3月期1Q決算概況

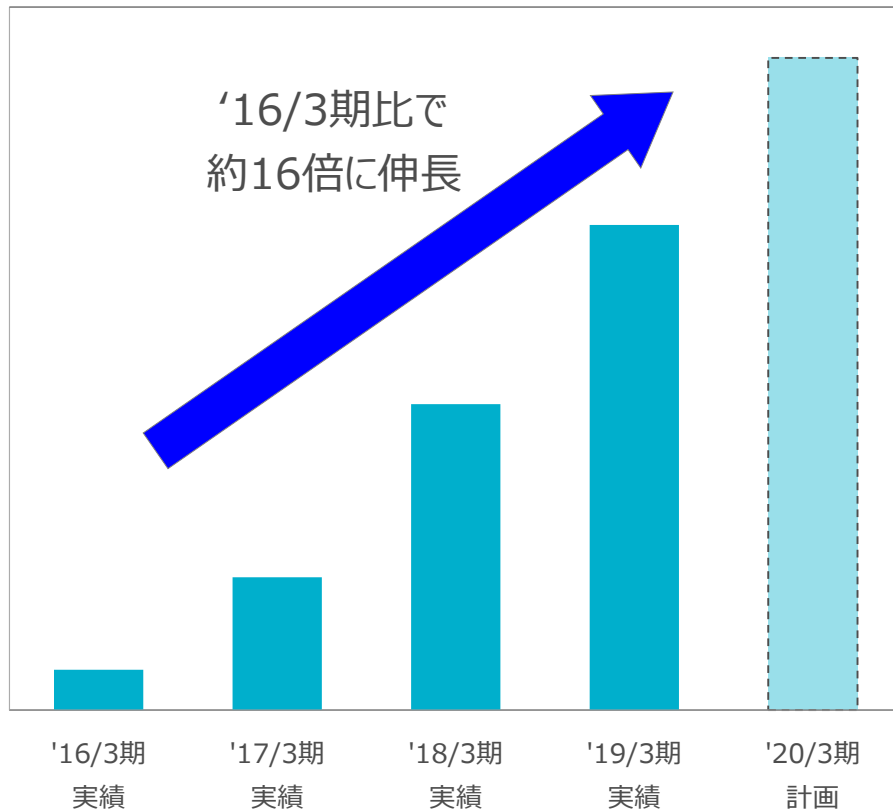
2. 2020年3月期 通期業績予想

3. 主な取り組み

# ドライブレコーダーの販売推移

- ドライブレコーダーの販売金額は、順調に拡大中。今期は'16/3期比で約16倍となる見込み

ドライブレコーダー販売推移※（金額ベース）



※ AM分野、MS分野、DXビジネス全て含む

- フロント・リアの2カメラモデルも拡大。リア用ドライブレコーダーを「リアレコ」として商標登録済み



フロント・リアのドライブレコーダーと当社製ナビの連携イメージ

# リアレコ

「リアレコ」ロゴ（出願中）



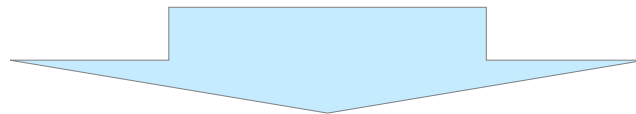
# Tプロジェクトの進捗（PS分野 無線システム事業の事例）

## ■ Tプロジェクトの目的

- 2020年ビジョン（ROE 10%）を確かなものにするため、2018年度に発足
- 2021年以降に向けての筋肉質な経営基盤を築き上げる
- 短期実利の獲得と中期施策の展開  
→ 総原価改革、フェーズゲート改革、業務プロセスとIT改革

## ■ 無線システム事業の事例

- 全1,090モデルの維持コスト＝年間約7.5億円。大半は設計開発費  
→ 186モデルを削減し、約2億円の維持コストを削減（3年間の累計）
- モデル維持業務による本来の開発業務の圧迫/阻害  
→ モデル数削減により、コアモデルへのパワーシフトを実現。設計業務を効率化



機種数削減のプロジェクトは他分野へ水平展開

- コア営業利益率10%超を目指し、物流費用・時間外労働費用の削減、材料コストダウンなど、総原価改善活動を強力に推進中

# 中国関連問題、韓国輸出規制、消費増税による影響について

- 中国の景気悪化及び8月1日発表の追加関税による影響
  - AM分野のJKHL（旧シンワ）とASKが2Q以降も中国での景気悪化の影響を受ける見込みだが、AM分野の他の事業及び他の分野への影響は軽微
  - 对中国追加関税による損益影響は数億円程度あるものの、生産地変更や値上げ等の施策で影響最小化を図っていく
- 韓国輸出規制による影響
  - AM分野で部品調達面での懸念があったものの、当面の生産分の確保ができていることから、他の分野も含めて影響は軽微
- 消費増税による影響
  - 現状では、大きな影響は見込んでいない



## 彩速HD「大画面9V型」が新登場

### AVナビゲーション“彩速ナビ”「TYPE M」

2019年3月発売、オープン価格

- ・当社初、大画面9V型の高精細・広視野角HDパネルを搭載
- ・HDの高品位感と緻密なリアル感を生かすユーザーインターフェース
- ・高精細HD映像で後方を確認できるHDリアビューカメラに対応



## 彩速ナビの大きな画面で録画映像がすぐに確認できる

### 2カメラドライブレコーダー「DRV-MN940」

2019年6月発売、オープン価格

- ・HD対応“彩速ナビ”「TYPE M」と連携可能な専用モデル
- ・前方・後方の映像を高画質なフルハイビジョンで同時に録画可能
- ・後方を確認できるバーチャルルームミラー & サブリアカメラ機能



## 大画面で美しい高精細HDパネル搭載

### 10.1V型HD液晶リアモニター「LZ-1000HD」

2019年6月発売、オープン価格

- ・HD対応“彩速ナビ”「TYPE M」と連携可能
- ・10.1 V 型の高精細HDパネルを採用
- ・車内空間にマッチする薄型でスマートなデザイン



## N\_W

HA-LC50BT 完全ワイヤレス



### ミニマルデザイン採用の完全ワイヤレスモデル

## Bluetooth®対応ヘッドホン「HA-LC50BT」

2019年6月発売、オープン価格

- Bluetooth®対応の完全ワイヤレスモデル
- さまざまなファッションに合わせやすいミニマルデザイン採用
- イヤホン本体のみで約5.5時間の長時間再生を実現

### さまざまな車の内装とコーディネートできる3色展開

## ドライブレコーダー“Everio”「GC-DR20」

2019年7月発売、オープン価格

- ドライブレコーダーのイメージを一新し、車内インテリアの感覚で選べる3色のカラーラインアップ
- 撮った映像をスマホで確認できるWi-Fi®機能を搭載
- フルハイビジョン（1920×1080）撮影に対応



### 高解像度・高コントラスト比を実現

## 医用画像表示モニター「CL-S500」「MS-S500」

2019年6月発売、オープン価格

- マンモグラフィ画像表示に求められる高解像度（500万画素）
- 高コントラスト比により、微妙な陰影・濃淡を忠実に再現
- 液晶パネルの保護と画面の映り込みを抑えるガラスフィルターを装備



# JVCケンウッド ソリューションフェア 2019（7/22～7/23開催）

- 当社グループの総合イベントとして7月に初開催、強みとなる「映像」「音響」「無線」技術を生かしたソリューションを13のテーマのもとに展示
- 約2,000人の来場者に対し、課題解決につながるソリューションを提案



会場となった秋葉UDX2F アキバ・スクエア



セミナーも含めて多くのお客さまがご来場

# JVCケンウッド ソリューションフェア 2019（7/22～7/23開催）

- 今後の成長が期待されるDXビジネスやヘルスケアに関連するソリューション提案を参考出品も含めて幅広い展示を演出

## DXソリューション

- 通信型ドライブレコーダーによる自動車保険向けテレマティクスサービスへの展開や、ドライバー向けセキュリティサービス、次世代IoT配車システムのほか、エッジAIカメラなど開発中のDX新規事業への取り組みを参考展示



## ヘルスケアソリューション

- 当社独自の注視点検出技術を活用した視線計測装置「Gazefinder」や、手術室内外の映像情報の一元管理まで拡張可能なORカートシステムを展示



# ライブ&カフェスペース「Veats Shibuya」

- ライブ&カフェスペース「Veats Shibuya (ビーツ・シブヤ)」が9月20日にオープン
- “Veats Shibuya OPENING EVENT”と題し、9月20日～27日にわたってビクターエンタテインメント所属アーティストが多数出演するスペシャルライブを開催



**Veats**  
SHIBUYA



9月20日 (金)	Colorful Records presents “Match Up” Day1 出演者：家入レオ、SCANDAL、吉田凜音
9月21日 (土)	Colorful Records presents “Match Up” Day2 出演者：iri、Yogee New Waves
9月23日 (月)	タワーレコード日本上陸40周年記念 ビクタージャズ祭り2019 <SCENES> 出演者：ADAM at、SANOVA、Schroeder-Headz、jizue
9月24日 (火)	夏の終わりのハーモニー♡～中島さんとNegiccoさん～ 出演者：中島愛、Negicco
9月27日 (金)	Veats Shibuya OPENING PREMIUM SEATED 出演者：ハナレグミ&手島葵

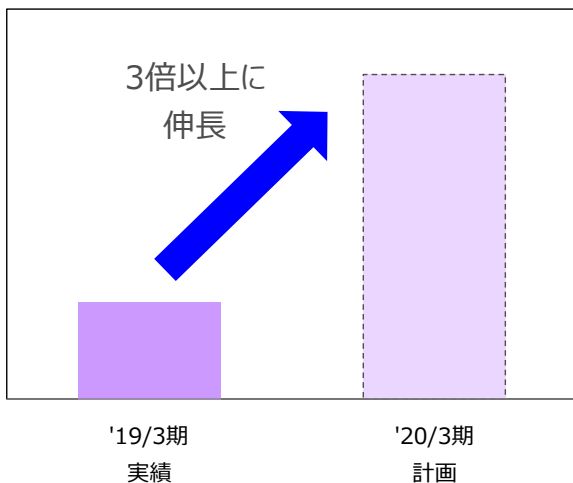
# DXビジネス事業部について

- 強みである「映像」「音響」「無線」に加え、オープンイノベーションの活用により、AIやIoTといった最新デジタル技術を駆使することで新たな価値・サービスを提供
- 通信型ドライブレコーダーを核とするテレマティクスソリューションなど新規事業の創出を図ることで、2020年3月期の売上収益100億円を目指す



通信型ドライブレコーダー

DXビジネス事業部の売上収益推移



				当社の提供範囲		
市場	パートナー	サービス名	ユーザー	ハードウェア 開発・製造	サービス	データ解析
<b>保険</b> 	MS&AD	見守るクルマの保険 (ドラレコ型)	保険契約者	○		
<b>業務用 車両</b> 	DeNA	交通事故削減 支援サービス 「Drive Chart」	運送業者	○		
<b>ライド シェア</b> 	Grab (インドネシア)	ドライバー向け セキュリティサービス 	登録 ドライバー	○	○	○

# JVCKENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況および製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。